

**1933年**

元首相清浦奎吾氏とドイツ大使E.A.Voretzsch氏の要請を受け、文相鳩山一郎氏が京都に独逸文化研究所を設立。

**1945年**

第二次大戦、日独敗戦と共に独逸文化研究所消滅。

**1955年9月**

京都大学医学部より第十四回日本医学会総会の余剰金の寄贈を受け、財団法人日独文化研究所設立準備。

**1956年3月**

財団法人日独文化研究所設立。文部大臣の認可を受け、関西財界とくに山岡孫吉氏の援助で京都市左京区吉田牛の宮四番地に研究所設立。

初代理事長に山岡孫吉氏、初代研究所所長に松本信一教授が就任。

開所式挙行。駐日ドイツ総領事Dr. Walter Hellenthal氏等官界、学界、実業界の著名人200余名が参加。



初代理事長  
山岡 孫吉



初代研究所所長  
松本 信一

**1960年3月**

ドイツ連邦共和国首相Dr.Konrad Adenauer氏、外相Dr.Heinrich Brentano氏来所。

**1961年4月**

創立五周年記念式典および日独修好百周年祝賀会挙行。

**1962年3月**

初代理事長山岡孫吉氏逝去、山岡康人氏二代理事長に就任。

**1963年10月**

二代理事長山岡康人氏急逝、山岡淳男氏三代理事長に就任。

**1964年9月**

ドイツ・ミュンヘンに本部を持つGoethe-Institutと締結し、研究所に京都ドイツ文化センター設置。

**1967年11月**

創立十周年記念行事挙行。

記念式典に駐日ドイツ大使 Franz Krapf 夫妻他多数参加。

記念講演会開催。

記念講演論文集出版(F.W.Wentzlaff・Eggebert博士他8名講演論文集)。

**1968年1月**

初代研究所所長松本信一教授高齢のため勇退。後藤光治教授が二代研究所所長に就任。

**日独文化研究所の歴史**

昭和8年(1933年)元総理の清浦奎吾伯爵とドイツ大使のVoretzsch氏とが京都に独逸文化研究所を作ろうではないか、ということと相談されました。それを受けて文部大臣の鳩山一郎氏が早速政府に掛合い、京都大学から東一条を隔てた西北の角地を提供することに話がまとまり、研究所が作られたのであります。この建築には文化勲章受賞の村野藤吾さんという方が当たられ、当時の金額で約10万円もの資金を投入し、34名の実業家がこれを負担したという話でございます。日本の独逸文化研究所が京都に初めて発足したことは、大変意義のあることだったと思います。当時の日本生命社長、弘世助太郎氏が理事長に就任され、京大の教授とかドイツ大使、総領事などが理事として政府から任命されていたようであります。そして、1945年ドイツの敗戦により独逸研究所は消滅し、その後約10年を経て、不死鳥のように新しい日独文化研究所が同じく京大の西北の角に、小さいながらも誕生するのであります。

(平成二年度賛助会員総会に於ける岡本理事長挨拶より)